

# 学 園 報



富山国際学園 URL <http://www.tii.ac.jp/> 富山国際大学付属高等学校 URL <http://www.tuins-h.ed.jp/>  
 富山国際大学 URL <http://www.tuins.ac.jp/> 富山短期大学付属みどり野幼稚園 URL <http://www.fsinet.or.jp/~midorino/>  
 富山短期大学 URL <http://www.toyama-c.ac.jp/>

●学校法人富山国際学園  
 〒930-0193 富山市願海寺水口444  
 TEL/076-436-5139  
 FAX/076-436-5444

## 今日の活動が明日を創る



理事長  
**金岡 祐一**

**理事長**：学園は50周年を記念し、Next Fifty へ。「大きな夢と共に課題多き」最初の10年を歩み始めました。第一に中島学長の下、大学、短大共に文科省「私立大学等改革総合支援事業」へ申請等、常に積極的姿勢。第二に各校は少子化競争の場で、学生募集につき一段と新しく工夫・努力を始めました。第三に学園事務局は一貫して地道な緊縮・蓄積。

**富山国際大学**：「現代社会学部」は平成26年度日本語検定で23名全員合格し、日本商工会議所会頭賞・団体表彰を受けました。また25年度は希望者就職100%、26年度も好調で有力企業も増加。新しく全学生に学生証ICカードを配布し、出席管理等、教育情報システムに活用予定です。「部活動」ではボート部女子ダブルスカルが9月、全日本選手権大会で優勝！全日本の軽量級選手権、大学選手権と併せ、三冠王は天晴れ。女子シングルスカル、女子エイト、男子かじ付フォアも入賞。ボート部頑張れ！女子ハンドボールも北信越リーグで6年連続の優勝はたのしい。「子ども育成学部」は教育実績評価が今や確立し、26年度は101名が入学（定員80名）。小学校教員採用試験に富山県9名、新潟県2名が合格。「教育と福祉のハイブリッド」に着実に成果をあげつつあります。キャリア支援にも努力。4年・藤井李保さんが北日本民謡大会優勝は異色。TWINSIは全日本大学女子野球で敢闘。

**富山短期大学**：9月、7年に一度の「短期大学基準協会・第三者評価訪問調査」を受けました。学長をはじめ全学をあげて準備し、事務レベルに渡る細かな質問もあったが、大過なく然るべく対応ができたかと思う（報告書待ち）。特筆すべきは「大学教育再生加速プログラム（AP）」に、テーマ「学修成果の可視化」で採択！全国で短大からは4校のみで、順調に進めば5年間で60,000千円程度の見込みか。本学の先駆的取組みが評価されたもので、これをもって今後の短・中期計画の力強い核の一つとしましょう。さらにアクションプランも計画し、加えて定員を確保すべく学生募集に一段と注力しています。「食物栄養学科」は学生主体の活動

サークル「トミタンスイーツ・ラボ」が始動。8月の全日本大学女子野球選手権大会前夜祭に赤米アイスクリームとスイカシャーベットを提供し好評。「幼児教育学科」は第一銀行奨学財団の助成等により教育に関する共同研究を推進。「経営情報学科」は就職内定率が好調。日商簿記検定合格者が全体の6割に達しました。「福祉学科」は全国的逆風の中ながら県厚生部の委託事業・高校生向けガイドブック「FUKUBON」を、協会校の中心となって企画。「専攻科食物栄養専攻」は25年度修了生が管理栄養士国家試験に合格100%を達成！学位取得率、就職率100%と併せ、3冠達成は立派。

**国際大学付属高校**：11月、ICT公開研究会「タブレットだから出来る授業って？」をテーマに実施予定。広く全国教育界の注目を集めています。富山県高校英語ディベートコンテストでA部門に2チーム参加し1・2位（1位は全国大会に出場）、B部門は1チーム参加し1位を獲得。部活では国体出場選手が各部総計12名にのぼる盛況。車椅子バスケットでは3年・岩井孝義君がベスト5に選出（東京パラリンピック候補？）。

**短大付属みどり野幼稚園**：活発な「父親の会」に象徴される保護者の積極的な協力関係こそ貴重な実績。保護者が中心で作った「幼児サッカーチーム」が富山幼児ソフトサッカー大会で優勝！そのほか「みどり野子ども祭」「どろんこ遊び大会」等、地域密着はよし。

**社会福祉法人富山国際学園福祉会・にながわ保育園**：園庭に山を作り芝生を張り、せせらぎを作り木を植えるなど大改造。遊びを通して「学び」に向う力を一そう育む一歩です。地元からも学園は厚い信頼を得ているのはうれしい。

### CONTENTS

- 今日の活動が明日を創る  
     理事長 金岡 祐一 ..... 1
- 特集1 新駅(願海寺)設置アンケート結果について  
     ..... 2~3
- 特集2 本校のICT教育 ..... 4

- トピックス 理事長県民ふるさと大賞受賞について ..... 5
- 平成26年度部門別学生・生徒・園児数等 ..... 5
- 平成25年度決算及び財務の状況 ..... 6~7
- 学園NEWS ..... 8

# 新駅(願海寺)設置アンケート結果について

富山国際学園「新駅設置推進協議会」

富山国際学園は、「永年の悲願」である呉羽キャンパス近傍への新駅設置の運動を、地域の皆様と協力しながら行っております。

願海寺地区に在来線新駅が設置されることで通学通勤の利便が大幅に向上し、本学園および地域のさらなる発展に繋がることから、新駅の利用見込みを把握するため、平成26年6月に本学園呉羽キャンパス（富山国際大学呉羽キャンパス・富山短期大学・富山国際大学附属高校・富山短期大学附属みどり幼稚園）の学生・生徒・教職員約2,000名を対象に、アンケート調査を実施しました。お忙しい中、回答・回収等、ご協力ありがとうございました。

## 現在の交通状況

呉羽キャンパスは在来駅から遠く不便



## 新駅(願海寺) 予定地

新駅(予定地)は呉羽キャンパスから歩いて7分(直線距離 500m)



(新駅周辺は田畑が広がり将来的には車と鉄道の併用による通勤等を可能にする「パーク&ライド」も可能)

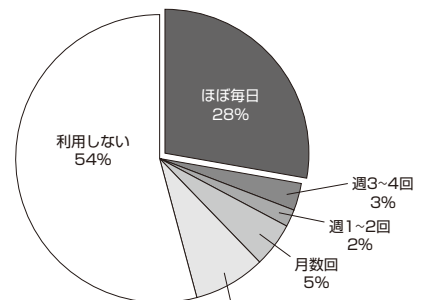
線路を横切る方法として、跨線橋(鉄道をまたぐ橋)のかわりに、駅設置費用が安価となる踏切を利用する方法を提案しています。

## アンケート結果 (回答者1,923名 回答率92.6%)

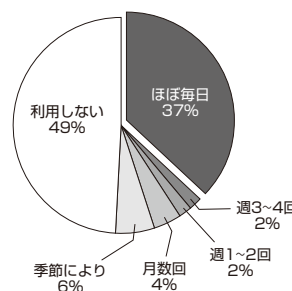
◆呉羽キャンパスに新駅が設置された場合、この駅を利用しますか。

### 新駅を利用しますか？

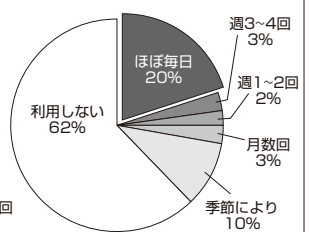
(学生・生徒・教職員全体)



(大学・短大生)



(高校生)



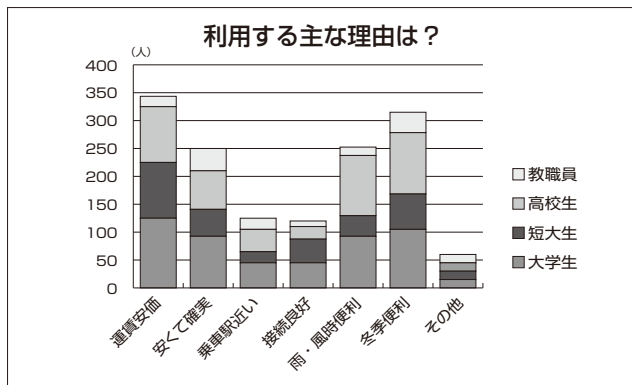
学生・生徒・教職員を合わせ約46%の者が新駅を利用するという回答結果になりました。

呉羽キャンパスには学生・教職員約2,200名が在籍しており、1日約700名の利用が予測できます。

学校別に比較すると大学生・短大生は、高校生よりも遠距離からの通学が多く、徒歩・自転車利用が少ないことなどから利用希望が高い割合でした。

### ◆新駅を利用する主な理由は何ですか？

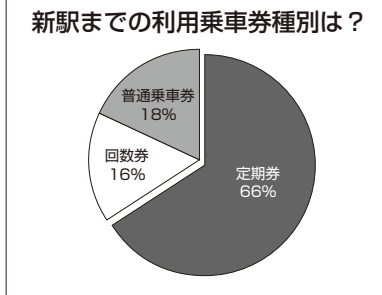
(利用すると回答した者のみ・複数回答可)



運賃が安価・次いで所要時間が短いとの回答が多く、また冬季は車やバスは大きく遅延するおそれがあることから、降雪時でも確実なダイヤで運行される鉄道を希望する者が多い結果となりました。

### ◆新駅までの利用乗車券種別は何になると思われますか？

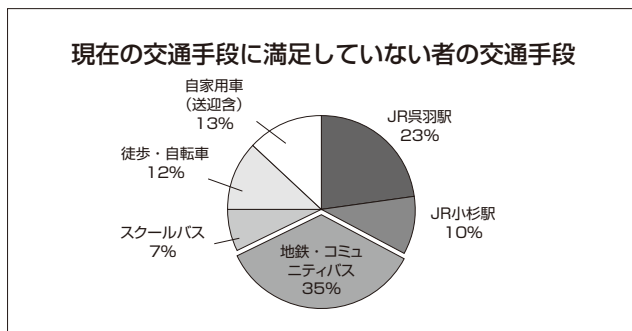
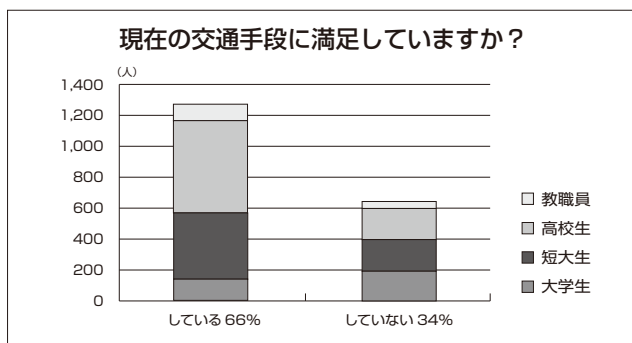
(利用すると回答した者のみ・予想・想定での回答)



新駅を利用する約2/3に当たる66%が定期券を購入すると回答していることから、新駅の安定した利用が見込めることが予想されます。

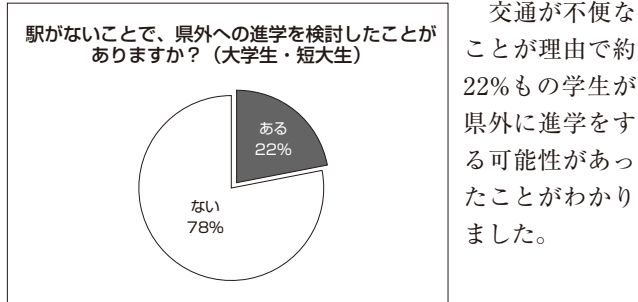
### ◆現在の交通手段に満足していますか？

約34%が満足しておらず、スクールバスの利用が少ない大学生・短大生の割合が特に高くなっています。

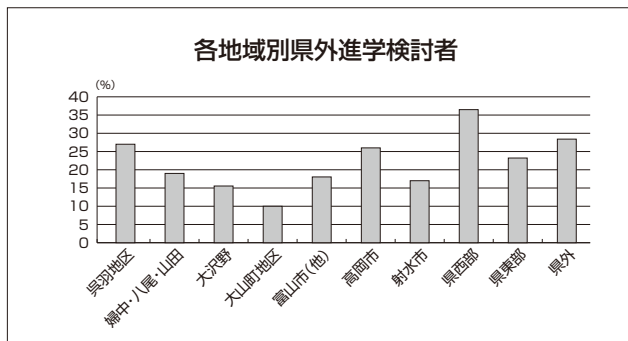


また、公共交通バス利用者の満足割合が低く、所要時間が掛かり、不確実で、運賃が高いことが理由であると考えられます。

### ◆キャンパスに駅がないことで進路選択時に県外への進学を検討しましたか？(大学生・短大生のみ)



交通が不便なことが理由で約22%もの学生が県外に進学する可能性があったことがわかりました。



地域別での県外進学検討者の割合は、富山県から石川県へ流出する傾向が特に高いことを反映して、呉西地区で多くなっています。

富山県の学生流出率は近隣県の中で最も高く、人口減少の要因にもなっており、新駅はこの対策にも貢献できると考えられます。

### ◆新駅についての要望・意見「自由記述」

- ・呉羽駅も小杉駅も遠く、私も家族も大変不便を感じており早急な設置を望みます。
- ・通学が便利になり勉強に励むことが出来るので是非作ってください。
- ・通学が不便なため先日電車から車にした。もっと早く作って欲しかったです。
- ・魚津までの直通の便が欲しい。
- ・新駅よりも、富山は車を利用している人が多いのでそこを改善した方が良いでしょう。
- ・駅前にショッピングモールなど楽しい施設を充実させてほしい。
- ・人、物の流通が増え、確実に地域の活性化と賑わいをもたらすと思います。

これからも本学園が参加している新駅(願海寺)期成同盟会を中心に地元の方々と、「新駅の夢」が一日も早く実現されるよう、ねばり強く活動をしてまいります。

今後とも教職員の皆様のご協力をお願いいたします。

# 本校のICT教育

富山国際大学附属高校



“最新”を使いこなす間もなく、次の“最新”が出現。昨日の常識が、今日は非常識。時の流れの速さに驚くばかりの今日この頃です。教育の世界も決して例外ではありません。スクラップ&ビルドにより“古き良き教育”を見直し、いくつもの“最新教育”にチャレンジし、新旧バランスのとれた教育を行うことに注力しています。それでも、時代は無情にも、我々の努力をあざ笑うかのように、ものすごいスピードで駆けていきます。追いつけないあせりで、自己正当化のために前例主義に陥り、ますます保守化していく。こんな悪循環だけは避けたいと、教職員全員、時代と格闘の毎日です。

そんな中、教育改革の一環として今年から新入生全員にiPadを導入し、新しい形の教育を追い求めています。生徒のスマートフォンの所持率が100%に近づきつつある現状を考えると、タブレット端末の導入くらいで教育改革とは少々大袈裟かもしれません。しかし、長年チョーク1本で戦ってきた教員にとってiPadそのものが完全な異文化であり、それを使って授業を行うことは、海外留学に匹敵する難事業です。

大勢の教職員がICT先進校の訪問やワークショップに参加し、頻繁にミーティングを開き、問題や成果を共有し、万全の態勢でiPad元年を迎えたつもりでした。しかし、予想しなかったトラブルがたくさん発生します。例えば、iPadを使えば、個々の画面で同じ映像を見ながらコミュニケーションが進むと考えていました。しかし、いざ使っ

みると、生徒は全員iPadの画面に集中。その結果、先生は全員下を向いた生徒に話しかけなければなりません。なんとも間抜けな話です。コミュニケーションの基本であるアイコンタクトどころではありません。iPadを使うには、やはりプロジェクターとスクリーンが必須でした。こうしたことは単なる一例で、予想外のトラブルに際し全教職員で問題を共有しながら一つ一つ解決し、ようやく授業公開ができるようになりました。今年の6

月には県内の進学校から多くの校長先生方や担当教員の方々が見学にお出でになりました。また、来る11月22日には全国へ発信すべく公開授業研究会を実施する運びとなりました。主要5教科に加えて、保健体育、家庭科の7教科でiPadを使った授業を公開します。こうした大掛かりな公開授業研究会は全国で初めてです。大勢の方々からたくさんアドバイスをいただき研究を深めたいと全教員が心から願っています。

ICT教育は日々進化しなければなりません。終わりのない戦いです。しかし、生徒達は生まれた時から携帯電話が当たり前の世代です。10円玉を入れて使う赤電話の世代とは育った環境が全く異なる、IT時代の申し子たちです。彼らの世代に合った教育を目指すのは、プロフェッショナルとしての当然の義務です。困難は承知で、全教職員一丸となってICT教育を推進して行かなければなりません。



## 理事長県民ふるさと大賞受賞について

平成26年5月10日(土)、富山県教育文化会館で挙行された「県民ふるさとの日」記念式典において、「県民ふるさと大賞」授賞式が行われ、金岡祐一富山国際学園理事長を含む5団体・1個人に授与されました。

金岡祐一理事長は、富山国際学園理事長並びに富山県私学振興会理事長として、富山県私学教育の振興に尽力するとともに、社会的ニーズに応えるふるさとに有意な人材の育成を通じて地域社会の発展に大いに貢献していること、また、薬学の研究及び企業経営の立場から、富山県の薬業振興にも大いに寄与していることが認められ、記念すべき第1回「県民ふるさと大賞（個人の部）」の表彰を受けられました。

愛着を育むとともに、希望と誇りの持てる「ふるさと富山県」を築き上げることを期する日とされています。

### 「県民ふるさと大賞」とは

平成25年の「県民ふるさとの日」の制定を契機に、これまでの「ふるさと教育とやま賞」に代えて設けられたもので、ふるさと教育の振興に関する取り組みはもとより、県民がふるさとへの誇りと愛着を育むことのできる取り組みを幅広く顕彰されるものです。

### 「県民ふるさとの日」とは

富山県は、明治16年（1883年）5月9日に現在の富山県が設置されてから130年目の節目を向かえたことを契機として、平成25年に、置県の日である5月9日を「県民ふるさとの日」として決めました。この「県民ふるさとの日」は、県民がふるさとの魅力を知り、理解を深め、ふるさとへの



## 平成26年度部門別学生・生徒・園児数等

平成26年5月1日現在(単位:人)

部 門	学部・学科名等	収容定員 (A)	1年	2年	3年	4年	合 計 (B)	定員充足率 (B/A)	備 考
大 学	現代社会学部	490	111	95	100	100	406	82.9%	
	子ども育成学部	330	101	85	80	78	344	104.2%	
	小 計	820	212	180	180	178	750	91.5%	
短 大	食物栄養学科	160	80	89			169	105.6%	
	幼児教育学科	160	83	88			171	106.9%	
	経営情報学科	200	102	127			229	114.5%	
	福祉学科	140	46	46			92	65.7%	
	専攻科食物栄養専攻	30	18	16			34	113.3%	
小 計	690	329	366			695	100.7%		
高 校	全日制普通科	730	262	277	337		876	120.0%	
幼稚園		84	3歳児	4歳児	5歳児		105	125.0%	
			31	31	43				
総 計		2,324					2,426	104.4%	

# 平成25年度 決算及び財務の状況

## 平成25年度決算及び財務の状況

平成25年度の事業報告及び決算は、去る5月27日開催の評議員会・理事会において承認されました。各校の主な決算の概要及び学園全体の決算・財務状況は以下のとおりです。

### 大学

大学は、平成21年度に設置した子ども育成学部が完成年度をむかえ、経常費補助金の対象となったことから、補助金が増加となり、加えて、積極的な経費削減努力の効果もあって、消費収支差額が33,883千円（H24 △61,298千円）の黒字計上となりました。長らく赤字体質の続いていた大学で黒字計上できたことは、大変意義のあることではありますが、単年度の黒字に一喜一憂せず、今後も安定的に黒字計上できるよう更なる努力が必要です。また、黒字計上とはなりませんが、未だ定員確保には至っていない現状にあります。志願者及び学生確保が最重要課題であることを再認識し、キャリア教育を含む教育内容の充実等を念頭に、今後も学生募集対策に注力しなければなりません。

### 短大

平成23年度から着手してきた新校舎改築工事が完成し、県内外の高校にPRしてきましたが、志願者が大幅に減となり、入学定員を確保できませんでした。短大は、これまで学園を財務面で支えてきましたが、今後は、従来にも増して各校の独立採算が求められることとなります。消費収支差額は、校舎改築に伴う旧校舎の除却処理等が終わったこと等により、40,750千円（H24 △252,135千円）の黒字計上となりましたが、今後の見通しは非常に厳しいと予想されます。また、短大校舎改築Ⅱ期工事を検討するためには、短大が安定的に定員確保を続けることが必須条件となるため、志願者減の原因を究明し、その対策を着実に進めなければなりません。

### 高校

昨年度に引き続き、新校舎やスクールバス運行の利便性、教育内容の充実等を中学校へアピールした結果、生徒数は定員を大幅に上回りました。新校舎建築にかかる基本金組入が完了したことにより、消費収支差額は、72,973千円（H24 △81,172千円）となり黒字を計上することができました。

今年度、国際英語コース1年生で試験的に行ったiPadを使った先進的なICT教育や、英語教育に特化した国際交流活動をさらに推進することで、本校の特色を明確にし、県立志向の高い富山県においても、本校専願の志願者を確保し、安定的に生徒を確保しなければなりません。

### 幼稚園

親子クラブや保護者会等との連携強化、預り保育の実施などにより、保育内容等が高く評価され、近年は収容定員を確保しています。しかし、消費収支差額では△3,730千円（H24

△10,017千円）となり、慢性的な赤字体質を解消するには至りません。加えて、園舎改修問題を抱えており、今後も収支改善に積極的に取り組む必要があります。

幼稚園を取り巻く環境は、県内においては幼稚園児数の減少が続いており、非常に厳しい状況にあります。加えて、幼保一元化の流れを受けて、幼稚園の今後の在り方そのものが変わる可能性があります。今後は、県内他園の状況も注視しながら、「みどり野幼稚園将来構想検討委員会」において、本園の今後の在り方や補助制度を見据えた改修時期等を慎重に検討しなければなりません。

## 学園全体の決算及び財務状況

**消費収支計算書**（1会計年度の消費収入と消費支出を明らかにして、その均衡状態を表すもの）において、消費収入の部で帰属収入合計が2,846百万円（対前年度比35百万円増・1.2%増）、消費支出の部で消費支出合計が2,569百万円（同225百万円減・8.1%減）、基本金組入額合計が156百万円（同270百万円減・63.4%減）となりました。この結果、平成26年度への繰越消費支出超過額（累積赤字）は、平成24年度繰越消費支出超過額3,045百万円に、平成25年度消費収入超過額を加えた2,924百万円となりました。

収入増の主な要因は、①高校の生徒数増、②学園創立50周年記念寄附金の増、③大学子ども育成学部の経常費補助金の増などです。②については、平成26年度以降は多額の寄附金は見込めないことから、平成25年度の特異要因であると言えます。

支出減の主な要因は、①退職者減による人件費の減、②短大校舎改築Ⅰ期工事完了に伴う資産処分差額（減価償却が残っている資産を取り壊した際に発生する費用）の減などです。

また、平成24年度に予算計上していましたが執行せず、引き続き検討することとなっていた基本金取崩（大学地域学部及び国際教養学部廃止にかかる取崩）については、公認会計士と協議を重ねた結果、取崩額算定方法が確定しなかったため、今回は取崩を見送ることとなりました。今後、大学東黒牧キャンパスの施設設備利用計画等を踏まえて、改めて検討することとなりました。

**資金収支計算書**（1会計年度のすべての資金の収入と支出を明らかにし、資金の動きを表すもの）において、平成25年度の収支状況を資金面の流れで見ると、収入額は平成26年度生の前受金や平成25年度末の未収入金等も含めて、3,575百万円（対前年度比234百万円減・6.1%減）となり、前年度から繰り越した832百万円（同225百万円減・21.3%減）を加えると、収入合計は4,407百万円（同459百万円減・9.4%減）とな

### 消費収支計算書

平成25年4月1日から  
平成26年3月31日まで  
(単位:百万円)

	25年度予算	25年度決算 ①	前年度決算 ②	差 異 ①-②	
消費収入の部	学生生徒等納付金	1,860	1,898	1,878	20
	手数料	33	35	35	0
	寄付金	3	53	43	10
	補助金	613	638	511	127
	資産運用	18	35	36	△1
	資産売却差額	1	0	20	△20
	事業収入	79	93	75	18
	雑収入	83	94	213	△119
	帰属収入合計	2,690	2,846	2,811	35
	基本金組入額	△137	△156	△426	270
消費収入の部合計	2,553	2,690	2,385	305	
消費支出の部	人件費	1,661	1,633	1,687	△54
	教育研究経費	811	775	838	△63
	管理経費	164	147	121	26
	借入金等利息	0	0	1	△1
	資産処分差額	16	13	147	△134
	徴収不能額	0	1	0	1
	予備費	16			
	消費支出の部合計	2,668	2,569	2,794	△225
	消費収入支出超過額	△115	121	△409	530
	前年度繰越消費支出超過額	△3,045	△3,045	△2,636	△409
翌年度繰越消費支出超過額	△3,160	△2,924	△3,045	121	

### 資金収支計算書

平成25年4月1日から  
平成26年3月31日まで  
(単位:百万円)

	25年度予算	25年度決算 ①	前年度決算 ②	差 異 ①-②	
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,860	1,898	1,878	20
	手数料収入	33	35	35	0
	寄付金収入	2	46	24	22
	補助金収入	613	638	511	127
	資産運用収入	18	35	36	△1
	資産売却収入	1	0	21	△21
	事業収入	79	93	75	18
	雑収入	83	92	132	△40
	借入金等収入	0	0	0	0
	前受金収入	469	444	445	△1
	その他の収入	1,002	875	1,254	△379
	資金収入調整勘定	△534	△581	△602	21
	当年度収入合計	3,626	3,575	3,809	△234
前年度繰越支払資金	832	832	1,057	△225	
収入の部合計	4,458	4,407	4,866	△459	
支出の部	人件費支出	1,657	1,629	1,694	△65
	教育研究経費支出	552	519	569	△50
	管理経費支出	162	145	119	26
	借入金等利息支出	0	0	1	△1
	借入金等返済支出	1	1	17	△16
	施設関係支出	768	762	1,022	△260
	設備関係支出	195	183	40	143
	資産運用支出	280	333	343	△10
	その他の支出	159	168	386	△218
	予備費	16			
	資金支出調整勘定	△119	△119	△157	38
	当年度支出合計	3,671	3,621	4,034	△413
	次年度繰越支払資金	787	786	832	△46
支出の部合計	4,458	4,407	4,866	△459	

りました。

一方、支出額は人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出、借入金等返済支出、施設・設備関係支出などで3,621百万円(同41.3百万円減・10.2%減)となり、差し引き786百万円(同46百万円減・5.5%減)が翌年度への繰越支払資金となりました。

収入の部では、その他の収入のうち、学園充実引当資産からの繰入収入(取崩)が大幅に増加しています。これは、短大校舎改築Ⅰ期工事費に充当するために、学園の積立資金を取り崩したことによるものです。

支出の部では、設備関係支出が大幅に増加となっています。これは、短大新校舎への新規備品の納入が増となったためです。また、施設関係支出も前年度よりは減額となっていますが、短大校舎改築Ⅰ期工事の完成払いがあったため、支出としては多くなっています。

**貸借対照表**(年度末における資産、負債、正味財産(基本金、消費収支差額など)の状態を表すもの)において、学園の財務状況を見ると、平成25年度末現在の資産総額は12,307百万円で、その内訳は有形固定資産(土地、建物、備品など)8,872百万円、その他の固定資産(特定資産、引当資産など)2,494百万円、流動資産(現金預金、未入金など)941百万円となりました。

一方、負債総額は1,215百万円で、その内訳は固定負債(退職給付引当金)608百万円、流動負債(未払金、前受金など)607百万円となりました。また、学園の借入金は、すべて返済が完了し、これからは無借金経営を行うこととなりました。

また、基本金は14,016百万円となり、その内訳は第1号基本金(設立当初に取得した固定資産並びにその後新たに取得した固定資産の自己資金による支払済額)が13,807百万円、第3号基本金(基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭等の資産額(奨学金基金など)が13百万円、第4号基本金(恒常的に保持すべき資金額(資金的な消費支出の1ヶ月分に相当する運転資金)が196百万円となりました。なお、第2号基本金(将来取得する固定資産の取得に充てる金銭等の資産額)は、短大校舎改築Ⅰ期工事に全て充当したため、残額は0となりました。

これらの結果、翌年度繰越消費支出超過額2,924百万円となりました。

平成25年度決算において、本学園は消費収支では、平成16年度以来、9年振りに黒字を計上することができました。また、帰属収支(経常収支)では、経営改善計画の最終年度でようやく黒字目標額を達成することができました。これは、大学子ども育成学部が完成年度をむかえて人件費等が補助対象となったことや呉羽キャンパスの施設投資が一段落したことが大きな要因です。しかし、呉羽キャンパスの施設投資

は、全て自己資金を取り崩して行っているため、学園の積立資金は大幅に減少し、学園の財務状況は非常に厳しい状況にあります。さらに、幼稚園園舎改修工事、短大校舎改築Ⅱ期工事など資金需要の大きな案件が控えており、学園は財政健全化に向けて努力を続けなければなりません。そのためには、各校において、入学志願者及び取容量の安定的な確保を最重要課題として捉える必要があります。また、国や自治体等の補助金制度が大きく変化している状況で、常にこれらの動向に注意し、積極的に補助金を獲得できるように努力しなければなりません。

私学を取り巻く環境は、少子化による18歳人口の減少や超高齢化社会の到来など、厳しさを増しています。特に、本学園のような地方の私学は、より厳しい状況にあると言えます。このような状況下において、本学園は平成25年度に、学園創立50周年という記念すべき節目の年を迎えることができました。これまで学園を支えて下さった富山県民、自治体、企業等関係諸機関など様々な方々に、深く感謝するとともに、今後も地域に根ざした教育機関として、教育を通して恩返しをしなければなりません。そのためには、教職員一同は「次の50年」に向けて、常に「学生主体の教育」を念頭に、地域の将来を担う人材育成に全力を注がなければなりません。(学園の詳細な財務状況等は、学園のHP【<http://www.tii.ac.jp/finance.html>】に掲載してありますので、そちらもご覧下さい。)

**貸借対照表**

平成26年3月31日

(単位:百万円)

科 目	本年度末	前年度末	増 減
資産の部			
固定資産	11,366	11,075	291
有形固定資産	8,872	8,191	681
その他の固定資産	2,494	2,884	△390
流動資産	941	1,004	△63
資産の部合計	12,307	12,079	228
負債の部			
固定負債	608	606	2
流動負債	607	658	△51
負債の部合計	1,215	1,264	△49
基本金の部			
基本金の部合計	14,016	13,860	156
消費収支差額の部			
消費収支差額の部合計	△2,924	△3,045	121
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	12,307	12,079	228

**消費収支計算書内訳表**

平成25年4月 1日から  
平成26年3月31日まで

(単位:千円)

	学園本部	大 学	短 大	高 校	幼稚園	総 額		学園本部	大 学	短 大	高 校	幼稚園	総 額	
消費収入の部	学生生徒等納付金	0	776,210	702,324	390,354	29,105	1,897,993	人件費	34,077	627,743	535,169	396,736	39,914	1,633,639
	授業料	0	412,864	350,890	295,040	22,032	1,080,826	教員人件費	0	410,193	347,123	355,730	39,525	1,152,571
	入学金	0	62,327	80,750	49,799	1,110	193,986	職員人件費	21,580	183,553	142,163	32,721	11	380,028
	実験実習料	0	38,694	46,204	0	0	84,898	役員報酬	11,230	0	0	0	0	11,230
	施設設備資金	0	187,375	154,330	40,740	1,944	384,389	退職金	1,050	25,370	45,824	8,285	0	80,529
	その他の納付金	0	74,950	70,150	4,775	4,019	153,894	退職給与引当金繰入額	217	8,627	59	0	378	9,281
	手数料	0	13,423	12,961	8,549	39	34,972	教育研究経費	0	339,265	230,811	185,195	19,621	774,892
	寄付金	13,550	7,126	24,463	6,883	826	52,848	管理経費	35,529	49,935	45,861	15,654	586	147,565
	補助金	0	216,102	143,183	258,941	19,737	637,963	借入金等利息	0	0	0	0	0	0
	資産運用	31,696	1,786	986	503	0	34,971	資産処分差額	0	1,496	2,812	8,620	0	12,928
	資産売却差額	0	0	0	0	0	0	徴収不能額	0	0	530	0	0	530
	事業収入	297	22,814	33,877	30,390	6,253	93,631	消費支出の部合計	69,606	1,018,439	815,183	606,205	60,121	2,569,554
	雑収入	828	31,929	48,893	11,729	784	94,163	当年度消費収入支出超過額	△23,247	33,883	40,750	72,973	△3,730	120,629
	帰属収入合計	46,371	1,069,390	966,687	707,349	56,744	2,846,541	前年度繰越消費支出超過額	—	—	—	—	—	△3,045,487
基本金組入額	△12	△17,068	△110,754	△28,171	△353	△156,358	翌年度繰越消費支出超過額	—	—	—	—	—	△2,924,858	
第1号基本金	0	△17,068	△110,754	△28,171	△353	△156,346	<参考> 帰属収支差額(帰属収入-消費支出)	△23,235	50,951	151,504	101,144	△3,377	276,987	
第2号基本金	0	0	0	0	0	0								
第3号基本金	△12	0	0	0	0	△12								
第4号基本金	0	0	0	0	0	0								
消費収入の部合計	46,359	1,052,322	855,933	679,178	56,391	2,690,183								

## 富山国際大学

### 学生の課外活動の優勝ラッシュ



ボート部の現代社会学部4年野呂瑞希さんと3年下尾裕子さんが、第92回全日本選手権大会女子ダブルスカルで、関西電力、早稲田大学、デンソーを抑え初の日本一に輝きました。野呂・下尾組は、全日本軽量級選手権大会優勝、全日本大学選手権大会優勝と3冠を達成しました。創部以来女子種目初の日本一を成し得た年となり、新たな歴史を刻みました。

また、子ども育成学部4年藤井李保さんが、2014越中おわら節全国大会及び第41回北日本民謡民舞富山県大会優勝、麦屋節コンクール全国大会準優勝に輝きました。10月には、第54回郷土民謡民舞全国大会に富山県代表として出場し、ハイライトの部で3位という成績を収めました。



## 富山短期大学

### トミタンスイーツラボが、みなさんに笑顔と幸せをお届けしています!



食物栄養学科は、食の面から健康をサポートする栄養士の養成を行っています。そのカリキュラムでは、安全に美味しく食べてもらって初めて、栄養につながることを学びます。

そして、今年度、学生がお菓子作りを楽しみながら研究・創作していくサークル「トミタンスイーツ・ラボ」が誕生しました。夏には、顧問の深井康子教授の指導の下、第28回全日本大学女子野球選手権大会で、富山県の特産品である入善ジャンボスイカのシャーベットに射水市の赤米を使ったアイスクリームをのせ、昆布を練り込んだスティックを添えて提供しました。

この様子は新聞でも大きく取り上げられ、富山県の魅力を存分に県外の選手や来場者の方にお伝えすることができました。また、メンバーは、みなさんが笑顔になり、会話が弾むような、スイーツの開発に向けて日々研究しています。

## 富山国際大学附属高等学校

### 国際高にあふれる中学生の声



8月22日(金)・23日(土)にオープンキャンパスを開催しました。

昨年まで開催時期をずらして2回実施していましたが、今年度は二日連続での1回の実施となりました。両日合わせて約670名の中学生が参加しました。2回開催の参加者の最多が約500名ですから、大幅の増加で、二日間にわたって参加した生徒もいました。教科・部活動のどちらの体験にも参加者が多かったのですが、特に英語とICT教育の象徴である、iPad体験コースに人があふれていました。

本校の特色が中学生に理解されているのを実感するとともに、5年連続の定員確保に向けて教職員の士気は高まっています。

## 富山短期大学附属みどり野幼稚園

### みんなでたのしいうんどうかい〜どきどきするけどやってみる!〜

10月4日(土)に短大体育館で運動会を開催しました。夏休み明けから、どんな運動会にしたい?また、頑張りたい!楽しみたいことは何?と話し合いながら、ひとつひとつ取り組んできました。広い体育館で、かけっこや、大玉転がし、ミニサーキットや、年長組のダイナミックなサーキット、見せ場のパラバルーンと、日頃楽しんできた遊びを活かして、たくさんのおうちの方や、お客さんに観てもらおう緊張や喜び、達成感に満ち溢れたひとときになりました。また、おうちの方が一緒に参加する取り組みも多く、お父さん達の綱引きは、とても盛り上がりました。未就園の子どもたちや小学生の子どもたちも楽しんでいました。

笑顔いっぱいの運動会になりました!

